

琉球大学学術リポジトリ

遮光処理がゲットウの生育、収量に及ぼす影響

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村山, 盛一, 印具茂, 奈美, 米盛, 重保, 大屋, 睦子, 野瀬, 昭博, 川満, 芳信 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016805

③ 遮光処理がゲットウの生育、収量に及ぼす影響

琉球大学農学部 ○村山盛一・印具茂奈美・米盛重保
大屋睦子・野瀬昭博・川満芳信

ゲットウは佐多岬から、沖縄、台湾、中国南部、東南アジア、インド等に分布する野生の植物であるが、最近、その茎から良質の和紙を製造する技術が開発され、また、葉から抽出される精油には香料成分、抗菌成分、抗酸化剤成分、農薬成分および医薬成分等が含まれることが明らかにされ、その有効利用が行われつつある。

現在、ゲットウ製品の原料としては南大東産のゲットウが使用されているが、今後需要が拡大してくると、山野に自生しているゲットウだけでは原料が不足し、栽培化が必要になってくると思われる。そこで、筆者らは施肥料、栽植密度の異なる条件下でゲットウの栽培試験を実施した結果、葉面積指数が他の栽培作物に比べて著しく高く、乾物生産能力の高い植物であることを明らかにした。本研究では、山野に自生しているゲットウの状況から判断して、遮光条件で生育が旺盛に見受けられるので、人工的に遮光区を設けて試験することにより、遮光がゲットウの生育、収量に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

材料および方法

1990年3月に琉球大学附属農場で栽培中のゲットウから株分けして採苗し、1/2,000 a ワグネルポットに移植して栽培した。遮光処理には寒冷紗を用い、対照区（無遮光区）、38%、54%および73%遮光区の4水準で実験を実施した。

結果

1. 株当たり茎数は対照区より遮光区が少なかったが、茎径、草丈、茎長、葉数および葉面積は遮光区が良い傾向を示した。
2. 収量調査の結果では、葉および茎の生重、乾物重とも遮光区が高い傾向を示し、特に、54%遮光区の値が大きかった。
3. 葉のクロロフィル含量、個葉の光合成速度とも遮光区で高い傾向を示した。

以上の結果からすると、ゲットウ栽培にとってはある程度遮光したほうが好ましいと思われる。しかし、これはポット試験の結果であり、今後、ほ場条件下でも遮光実験を実施して検討する必要がある。